



柏崎市教育委員会 博物館 埋蔵文化財係 学芸員

中島 義人

NAKAJIMA YOSHIHIITO

1971年 埼玉県生まれ

1998年 旧西山町役場に入庁

市内西山町坂田にある「埋蔵文化財事務所」は柏崎市内で発掘された遺跡の調査・保存・保護を担う拠点。発掘された収蔵物の欠片などは一つひとつ汚れを落とした後、整理・分類され一部の土器などは復元し保管されている。

埋蔵文化財の調査・研究・保護に25年以上携わっていると話す、学芸員の中島義人さん。父の転勤に伴い小学3年から10代の時期を新潟市で過ごした。歴史が好きで大学では考古学を専攻。岐阜や青森、富山県内などで平安時代から室町時代の集落跡や館跡、古墳の調査を経験した。卒業後は旧西山町職員として入庁。町で遺跡調査を担当する初の学芸員としての仕事が始まった。

中島さんが担当したのは西山町地内の畠田遺跡、井ノ町遺跡、宮ノ前遺跡に続き、坪之内遺跡では弥生時代として県内最大のヒスイの勾玉まがたまが発見され大きな話題になった。半透明の緑色をした糸魚川産の良質なヒスイ製で長さ4.7cm、厚さ1.9cm、重さ49g。4cmを超えるヒスイまがたまの勾玉は全国でも十指に入る大きさで、入庁5年目の中島さんは初めて報道発表を行った。新聞やテレビ、ラジオ等での解

説やさまざまな取材への対応を経験し、戸惑うことばかりだったが学ぶことは多かったと振り返る。

これまでの調査で印象深かったのは市内山本地内の西岩野遺跡。弥生時代後期の神殿とみられる大型の掘立(ほったて)柱建物跡が見つかったことを覚えている方も多いだろう。これは弥生時代としては本県初の発見だった。

当初、西岩野遺跡は昭和60年代の調査から弥生時代の溝に囲まれた環濠集落かんごとされていたが、本調査で方形周溝墓ほうけいしゅうこうぼが発見され、勾玉や管玉、ガラス小玉の副葬品まがたま くだたまが見つかった。中島さんによると「柱穴は掘る前から四角いことがわかっていました」そうで、当時は「弥生時代の北陸地方にそんなものがあるのかと半信半疑だった」。柱穴には柱の根元部分が腐った土の跡が残っており、そこから「柱の大きさはおよそ直径40cm、弥生時代の巨大な神殿があったといわれています」という。現在は遺跡の歴史的重要性から県道の工事計画も変更され貴重な遺構の大部分が保存されることになっている。

遺跡調査は計画から試掘、調査、報告書のまとめまで何年もかかる仕事、「思いもかけないものが出てきた時にやりがいを感じる」と中島さん。「この場所にこんな遺跡があるんだという驚きの繰り返しでこれまで調査したどれもが興味深い遺跡」だという。

多くの人たちの尽力で保存されることになった西岩野遺跡のように今後は遺跡を生かす方法を考えていきたいと話している。



西岩野 玉類

お問い合わせ

埋蔵文化財事務所
柏崎市西山町坂田366
☎0257-47-2003



WEB